

# 若いなかま

若いなかま No.212  
2022 (令和4)年 3月15日 発行

発行 (公社)福岡県青少年育成県民会議  
〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番50号  
吉塚合同庁舎6F  
TEL(092)643-6001 FAX(092)643-6003  
E-mail: net.y.d@isis.ocn.ne.jp  
ホームページ: https://fayd.jp/



スキルアップ研修会の参加者



炊飯食材、選定



美しい 日の出のなかの散歩



カッター船体験

## 目次

「家庭の日」「オアシス運動」 最優秀賞・優秀賞の紹介……………	2～3
市町村民会議の取組紹介 「親の学び・0～3歳～コロナ禍のとりくみ」……	3
青年ボランティア・サポーター登録認定者研修会 ……	4～5
青年リーダー養成事業「減災を考えるワークショップ」を開催!! ～福岡県青少年団体連絡協議会～……	6

賛助会員へのお知らせとお願い……………	6
(公社)福岡青少年育成県民会議 賛助会員のご紹介……………	7
青少年の健全育成を考える 「青少年育成“考”」……………	8
事務局だより……………	8

**お詫びとお願い** 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、編集会議をはじめとして、青少年健全育成関係諸事業の延期・中止、取材行動の自粛等で広報誌「若いなかま」の発行が遅れました。また、紙面についても縮小せざるを得なくなりました。県民会議の会員の皆様をはじめ、日頃より県民会議の活動を支援して頂いている方々や団体・企業の皆様深くお詫びを申し上げます。今後は、新型コロナウイルス感染拡大の状況に注視し、最大限の防止策を行いながら、できるだけ早期に従来の広報誌に戻し、さらに良い、広報誌作成作業を進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

## (公益社団法人)福岡県青少年育成県民会議は、

青少年問題の重要性にかんがみ、広く県民の総意を結集し、国や県の施策に呼応して、総合的な運動を展開し、将来を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に昭和41年12月13日に結成されました。  
(昭和45年社団法人。平成25年4月1日公益社団法人に移行となる。)

# 令和3年度 家庭の日・オアシス運動

◇ポスター：最優秀賞・優秀賞作品 ◇作文：最優秀賞作品の紹介



◆ポスターの部

九州産業大学付属九州高等学校

1年 大野

たまき 珠季

▼子供の健やかな成長は家庭から▲  
「家庭の日」・「オアシス運動」が地域に広く普及するように小・中・高・特別支援学校生を対象にポスター及び作文を募集しました（応募総数ポスター1625点、作文691点）。応募作品は、第一次審査、第二次審査を経て、それぞれ最優秀賞1名、優秀賞9名、奨励賞20名が決定しました。なお、令和3年度最優秀・優秀作品の表彰式は、昨年引き続き新型コロナウイルス感染症拡大及び感染防止のため中止。展示については、令和4年1月24日～30日アクロス福岡メッセJホワイエに於いて実施されました。今号では、ポスターの最優秀賞と優秀賞9点、作文の最優秀賞の作品を紹介します。



水巻町立伊左座小学校  
1年 吹田 健



苅田町立白川小学校  
2年 井中 ももか



福岡市立弥生小学校  
3年 上原 大空



苅田町立馬場小学校  
4年 石川 知冴



柳川市立垂見小学校  
5年 田中 もあ



苅田町立馬場小学校  
6年 古川 未憂奈



遠賀町立遠賀南中学校  
1年 五十嵐 隆人



芦屋町立芦屋中学校  
2年 花田 朋香



九州産業大学付属九州高等学校  
1年 伊藤 大観

県民会議では優秀な作品は、展示したり広報誌やホームページに掲載し「家庭の日」、「オアシス運動」を県内全体の運動へと広げていきたいと考えています。

◆ 作文の部

最優秀賞

「お母さん、ありがとう」

久留米市立篠山小学校

4年 古田 姫采 ひめな

八月十一日から、私の住む久留米市に大雨が一週間以上ふり続きました。  
お母さんは、十一日に「二回目の新型」コロナウィルスワクチン接種をしました。

次の日の十二日も雨でした。お母さんの新型「コロナウィルス」ワクチン接種をした左うでがはれていて、とてもいたそうでした。でもお母さんは、朝から大雨にそなえて荷づくりをしていました。わたしも大事にしている物を荷づくりしました。お母さんが大きなカバンにつめていた物は、わたしと二年生の妹の教科書や図書室で借りている本・体そう服・夏休みの宿題・お道具がくろ・笛などでした。わたしと妹が、二十五日から学校が始まった時に困らないようにと、学校で使う物ばかりを一生存命にカバンに入れていました。お母さんは、いたむ左うでをかばいながら、色々なしゅんびをしてくれていました。

わたしは、お母さんがいつも大事にしている物をカバンに入れていないことに気がつきました。

わたしはあわてて、お母さんに

「お母さんの大事な物も早くカバンに入れて。」と言いました。するとお母さんが、「心配してくれて、ありがとう。持って行きたいけれど、これ以上の荷物は持てないからね。それに、あなた達のことが一番大事だから、あなた達が学校で困らないよ

うにしたいの。」と笑顔で言いました。

お母さんにとって、自分の大事にしている物よりも、わたし達が学校で困らないことのほうが大事なんだと知り、うれしい気持ちとごめんさしいの二つの気持ちになりました。わたし達のことを一番に考えてくれて、感しゃの気持ちでいっぱいです。

夕方、市役所の車がひなをよびかけていました。

わたしも妹も、お母さんのおかげでホテルにぶ事にひなんすることができました。お母さん、左うでがいたいのわたし達の学校の道具をたくさん家から持ち出してくれて、ありがとう。

お母さん、わたし達のことを一番大事と言ってくれて、ありがとう。うれしかったよ。

お母さん、大好きだよ。



優秀賞受賞者

氏名	学校名	学年
青柳 龍之介	福岡市立西新小学校	1年
古田 優姫 <small>ゆめ</small>	久留米市立篠山小学校	2年
諫元 妃莉 <small>ひかり</small>	福津市立津屋崎小学校	3年
木原 勘太	福岡市立玉川小学校	4年
菅原 彩乃	みやま市立桜舞館小学校	5年
田中 瑛怜菜	水巻町立伊左座小学校	6年
工藤 修嵩 <small>なおたか</small>	遠賀町立遠賀南中学校	1年
井野口 まほ	福岡県立嘉穂高等学校附属中学校	2年
阿部 愛佳 <small>まなか</small>	福津市立福岡中学校	3年

那珂川市青少年育成市民会議の取組紹介  
「親の学び・0〜3歳」——コロナ禍のとりくみ——

那珂川市青少年育成市民会議では、市内各小中学校の入学説明会にあわせて、保護者を対象に「親講座」を実施していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策等により保護者を一同に集めての学習が出来なくなりました。そのため、動画配信(YouTube)を利用した、子育ての学習・啓発パンフ(広報紙「あおぞら」)を作成して、配布しました。視聴された、保護者からは、「大切なことが分かって、良かった」等の声が届いています。

♡子育てでハッピーを体験した2児のママの感想  
2児の女の子(それぞれ4歳・6歳)と2男(それぞれ1歳・2歳) 藤岡由佳子

こんにちは YouTube 見ました!!  
今の私に大変役立つ内容で良かったです!!  
自己肯定感が大切ってことは知ってましたが、目えさせるってことが大切ってことが改めて分かりました!  
そして「目やかすこと」と「目えさせる」ことの違いも分かりやすかったです!  
もうちょっと早く見てれば私も、モモちゃんのお歌に応えてあげられたなあと反省しました。  
今からでも「目やかす」んじやなくて「目えさせよう」と思います♡

LINE OFFICIAL ACCOUNT  
「子育てでハッピー-LINE」  
お届けします  
https://www.happylife.jp/

【那珂川市青少年育成市民会議】は、青少年問題に関する思いや考えと、関心をもとに、青少年健全育成に関する活動の推進、啓発活動を実施し、青少年のいのちや心を守り、楽しいまちになるよう努力を続けています。

那珂川市青少年育成市民会議事務局の開催は、那珂川市西郷1丁目1番1号  
第2会議室、火曜日の8:30~17:00です。  
事務局 093-775-6424(直通)  
那珂川市青少年育成市民会議ホームページ  
URL <http://www.yamakun-momochan.net/>

那珂川市青少年育成市民会議  
親の学び・0〜3歳 あおぞら

子どもの自立は自己肯定感から始まる。

自己肯定感とは、わかりやすくいうと「自分は大切に存在なんだ」「生きていく価値があるんだ」「必要とされているんだ」といふ気持ちです。

お母さんに「誇ってあげよう」「ほめよう、してあげよう」「ほめてあげよう」「一緒に笑って」「そのように育てていくのです。この気持ちで育てていくのです。」

子育てに「安心と自信」を与えてくれる講演です!!  
YouTubeで観て下さい

子育てハッピーアドバイス  
〜地域で家庭教師を支えるために〜  
講師：岩城大二氏 (50分)  
那珂川市立西郷小学校  
児童発達支援センター  
心療内科

つながりがある豊かな家庭を築こう  
〜これからの家庭教育と保護者の役割〜  
講師：少美園孝氏 (60分)  
那珂川市立西郷小学校  
児童発達支援センター

主催：文部科学省 後援：厚生労働省

FFG ふくおかフィナンシャルグループ

あなたのいちばんに。

ふくおかフィナンシャルグループは、まちや人が輝く場面をともに創り、寄り添うことで、地域とともに、お客さまとともに成長していく存在となることを目指しています。

いちばん近くで    いちばん頼れる    いちばん先を行く

それが、私たちからお客さまへの約束です。

福岡銀行

青年ボランティア・サポーター登録認定者  
研修会（スキルアップ研修会）  
と き 令和3年12月4日（土）～5日（日）  
と ころ：山口県油谷青少年自然の家

令和3年8月に実施予定の「異年齢交流で育て！青少年育成キャンプ（略称：「育成キャンプ」）」をはじめ、県民会議の諸事業が新型コロナウイルス感染拡大防止の「緊急事態宣言」等で、中止や延期となり、県民会議にボランティア登録している高校生や大学生、社会人サポーター達のボランティア活動も出来なくなりました。今回実施された「スキルアップ研修会」は、この様に諸事業の中止や延期が続く中、ボランティアやサポーターの活動意欲を維持し、社会人に向けて経験値を継続して積む為の学習会として実施したものです。

#### 実行委員会を中心に

健全育成部会は「育成キャンプ」中止後の対応の一つとして、県民会議に登録しているボランティアやサポーター達の活動・研修の確保について協議しました。その結果、「貴重な青年期に主体的な活動を確保する」必要があること。このため、青年サポーター（「育成キャンプ」に小・中学生時に参加して、高校生・大学生等の時期にボランティア活動を経験し、社会人となっても県民会議の諸行事を支援するグループ）達で実行委員会を作り、1泊2日の「スキルアップ研修会」を実施することにしました。

5名のサポーターで構成する実行委員会は、毎週



日曜日の19時より、8回に及びリモート会議を行い、参加する高校生や大学生等が何を学びたいか、スタッフ同士の繋がりをどのような内容で行うか等々、自らの経験を元にプログラムを作りました。

#### 研修プログラム①

12月4日（土）8時

30分、17名のボランティアと3名の社会人サポーター、3名の健全育成部会委員、合計23名が、吉塚合同庁舎に集合しました。新型コロナウイルス感染防止の体温健康チェック表の提出、ワクチン接種・陰性反応証明等も確認し、出発式後、貸し切りバスで、油谷青少年自然の家へ出発しました。到着後、入所式等も終わり、早速、研修プログラム①、グループワーク「育成キャンプで実施したいことを考えよう」が、開始されました。参加者は、3班に分かれ、小中学生の立場になって、プログラムを立案し、その理由も考えました。この研修では、「参加する側のキャンプから主催する側のキャンプへ」を想定することで、目的・準備等の設定方法を考えるものになりました。各班からのプログラム案の中には、コロナ対策マスクを使用しているプログラム、学校生活と結びつけた小運動会プログラム案等が発表され、青少年健全育成の目的に沿って、ユニークでアイデア豊かなプロ



グラム案が出されました。

夕食は定番メニューのカレーでしたが、実行委員が準備した様々な食材を、班毎に食材を選んで、人数分を使い切り、野外炊飯を行うという作業でした。しかし、海風が強く冷たいため、本館ロビー

でガスコンロを利用していた炊飯調理となりました。参加者は既に小中学生時に何度も野外炊飯を体験しており、すぐ、カレーが出来ました。班別に使った食材が違うけど、全て大変美味しい夕食でした。

#### 研修プログラム②

入浴後、夜の研修プログラム②、グループワーク「班内でのケンカをどのように解決するか」を「ワールドカフェ」の対話手法を使って行いました。自分が担当する班で、「ケンカ」等が起きたときに、どのような対処法が良いのかを、グループ内で出し合いました。また、グループ内で出た意見は、他のグループにも紹介しながら進められました。最後に、前面黒板に対処法を記入した付箋を添付しながら、他の人の考えを紹介してまとめました。

実際の「育成キャンプ」では、このような具体的な事例の対処について、じっくりとスタッフ同士で話す時間や機会が無く、経験した年上スタッフ達の話も聞



ける等、大変良い機会となりました。

### カッター船体験

12月5日(日) 研修会の二日目です。昨日とは、全く違って、海風も穏やかで、早朝の海辺の散歩では、日本海から昇る鮮やかな光線を放つ

太陽に「初日の出」を見るような感動と清々しきを感じました。(表紙参照) レストランでの朝食後、研修プログラム③カッター船体験を9時より行いました。海上、船上の活動になるので、危険を回避するために入念な、オリエンテーションが行われ、ライフジャケット着用等の点検後、櫂の動かし方等を習って、いよいよ、乗船です。

12名乗りのカッター船は、左右舷に各6名座ります。櫂の長さは約4メートル、重さは約10キログラムで、船の横の櫂座に櫂を置き漕ぎます。櫂を手に持つところを「ハンドル」、海水に着水するところを「ブレード」と言い、両手(逆手)でハンドルを持ち、ブレードを号令に合わせて海水を掻き、船は後ろへ進みます。号令は、艇長(自然の家の職員、指導者)がおこない、艇員は、声をそろえて櫂を漕ぎます。

参加者は、櫂が重く、櫂座に置くこともままならず、前後の者が協力して櫂座に櫂をセットしました。号令の「3」で櫂を漕ぐ(動かす)のですが、ブレイ

ドの向きが一定でなく、皆の動きがなかなか合いません。どうかすると、ブレードの向きによっては、海水からブレードを上げることすら難しい状態でした。艇長の「前えー」の号令で、参加者が「1!、2!、3!、4!」と声を合わせて、漕いでいきました。四苦八苦しながらも、段々と「声」が合ってきて、櫂の動きも揃ってきました。そうすると、驚くほどの推進力でカッター船が前へ進んでいきました。みんなの力が一つにまとまれば、想像以上の力が発揮できることを体験しました。無人島の周り、約2キ



ロを約2時間かけて操作し、終盤では、櫂の操作も慣れてきて、上手く海水を掻くことができていました。福岡県周辺では、カッター船の体験場所は皆無で、とても貴重な体験をすることができました。

昼食後、退所式を行い、17時には県吉塚合同庁舎へ無事に帰ってきました。1泊2日の短い期間でしたが、参加した高校生・大学生等ボランティア、社会人サポーターからは、参加して良かったと言う感想がありました。その、いくつかを紹介します。

### 参加者の感想

「この研修会に参加したのは、通常の夏のキャンプが無かったからです。夏のキャンプが始まる前に高校生リーダーから大学生リーダーになって、自分にはどんなことが出来るのかなと思い、わくわくした気持ちを持っていましたが、中止になってしまいました。キャンプがなかった分、この研修で自分を見つめ直し、次のキャンプでできることを増やそうと思いを加を決めました。」

「縦のつながりや横のつながりがあるから、成長できているので、一つ一つの交流や絆を大切にしていきたい。多様化している世界で様々な人と関わる事が多くなってきたので、受け入れ、尊重し、コミュニケーションをとることが大切だと思いました。この考えを社会に出ても活用していきたいと思いました。」

「このキャンプ(研修)に来ると、なんかみんなに優しく接することが出来るし、とても、落ち着けられるので、日常生活にも活かせると思います。また、客観的に見るのが大切だと感じる事が出来ました。自分一人で考えて、答えを出すのではなく、周囲と協力して答えを出していく課程も大切だと感じる事が出来ました。」

参加した高校生・大学生ボランティア、社会人サポーターの皆さん、今回のスキルアップ研修会の体験を経験に活かす意識的活動を目指していきましょう。お疲れさまでした。

青年リーダー養成事業  
「減災を考えるワークショップ」を開催!!  
福岡県青少年団体連絡協議会



令和3年  
12月12日  
(日)に九州ビルで開催され、26名が参加しました。講師は減災活動団体「akari」として全国で講演活動を行っている

安田もえ氏と三浦七海氏です。宮城県在住で東日本大震災を小学生の頃に経験した三浦さんが地震発生の模様、津波後の街中の状況、避難所での生活、避難所での人の心の変化、支援・援助物資の実態、自宅を流された感想等々、経験者でしか知らない生々しい話を聞きました。新聞やテレビ等では知ることが出来ない現場の状況にただただ驚くばかりでした。自然災害に遭遇し、避難する場合の行動判断、情報伝達のあり方などについて、安田さんが参加者に条件を設定して模擬演習を行いました。しかし、簡単に考えていたことがなかなか上手くできないことに気付かされました。自然災害での被害を少なくするための「減災」の取り組みは、改めて大事だと考えさせられた研修でした。

## 広報部会委員の募集!!

県民会議では、広報紙「若いなかま」の広報部会委員の募集を行っています。「テーマに沿って、取材を行い、記事にする」また、自らの経験値を高める事にもなります。興味のある方、お気軽にご連絡ください。

### 一、補充人数 若干名

### 二、活動内容

- (1) 広報「若いなかま」年3回発行  
(7月、11月、3月)の企画・取材・編集等
  - ①企画と編集会議出席数(各号の発行毎)
    - ・約5回(午後1時30分から午後4時ぐらいまで)
  - ②担当記事の起案作業
    - ・研修会等の事業や特集の取材を行う。(分担取材)
    - ・主な行事
      - 総会(5月)、「野外学習」(8月)、県囲碁大会(8月)
      - 少年の主張県大会(9月)、
      - 県民さわやかマラソン(11月)、乳幼児教育研修会(2月)
- (2) 特集などを企画する場合は、複数委員で取材を行う。
  - ①市町村民会議の取り組みや人物の取材
  - ②少年院等の更生施設や青少年・福祉施設の取材

### 三、費用弁償

- (1) 旅費と日当(必要に応じて弁当等)

### 四、手続き

- ①本人就任了承 → ②広報部長が推薦 → ③会長が選任
- ④理事会に報告 → ⑤部会で活動

### 五、連絡先

(公社)福岡県青少年育成県民会議事務局  
育成課(広報部会担当)田中  
TEL: 092-643-6001  
FAX: 092-643-6003  
メール: tanaka.m.1803@diary.ocn.ne.jp

## 賛助会員へのお知らせとお願い

### =掲載記事募集=

このほど広報部会では、あらゆる場所で取り組まれている青少年健全育成や社会貢献を広く紹介すると共に、さらに、県民の方々が身近に感じる広報紙の内容にすることとしました。つきましては、全ての賛助会員の方々から広報紙「若いなかま」に掲載する記事を募集します。

- 1、掲載する記事は、「青少年健全育成」「社会貢献」等を内容とする取組
- 2、記事の字数は、300字程度、なお、活動の様子が分かる写真1枚必要
- 3、記事の掲載は、7月、11月、3月の発行月に近い号に掲載
- 4、記事を送る場合は、メール、FAX、郵送でも可能(ただし、写真は、メールか郵送)
- 5、送り先、  
〒812-0046  
福岡市博多区吉塚本町13-50福岡県吉塚合同庁舎内6F  
(公社)福岡県青少年育成県民会議 育成課 田中宛まで  
TEL: 092-643-6001  
FAX: 092-643-6003  
メール: tanaka.m.1803@diary.ocn.jp

社会の未来のために、私たちができることを。



# 令和3年度 (公社)福岡県青少年育成県民会議へ賛助いただいた会員の御紹介

令和4年3月1日現在 (敬称略: 50音別)

次の世代を担う青少年の健全育成活動にご支援いただき、誠にありがとうございます。心から御礼を申し上げます。

## 特別賛助会員の皆様

(株) アサヒ緑健 エントリーサービスプロモーション(株) 九州電力(株) 九州旅客鉄道(株) (株) 九電工 (株) Q T n e t	コカ・コーラボトラーズジャパン(株) 西部ガスホールディングス(株) J A パ ン ク 福 岡 (株) 新 出 光 (株) 筑 邦 銀 行 (株) 西 日 本 シ テ ィ 銀 行	(株)西日本新聞エスピーセンター 西 日 本 鉄 道 (株) 日 本 食 品 (株) 日 本 た ば こ 産 業 (株) (株) 福 岡 銀 行 福岡県公認ポウリング場協会	福 岡 県 市 長 会 福 岡 県 信 用 保 証 協 会 (公社)福岡県宅地建物取引業協会 福 岡 県 町 村 会 (株) 福 岡 中 央 銀 行 ポ ン ウ ェ イ (株)
--	---	---	---

## 団体賛助会員の皆様

(株) あ ら い (株) 有明ねっとこむ (NPO) 飯塚市青少年健全育成会連絡協議会 糸田町自由ヶ丘老人クラブ鶯会 岩崎建設(株) 岩本明子英会話教室 上村建設(株) (株) おおすみ制服 大野印刷(株) 大野城ライオンズクラブ 粕屋殖産(株) 嘉穂無線ホールディングス(株) (株) 環境開発	苜田ライオンズクラブ (合) キ ャ メ ル キ ュ ー サ イ (株) (一社)九州学士会福岡支部 久留米商工会議所 (医)光風会宗像病院 公立学校共済組合福岡宿泊所 (株) 三 広 (医)三裕会拾六町病院 (NPO)次世代のチカラ FUKUOKA 新善テック(株) (医)成晴会堤病院 (株) 瀬利宗助商店	大 同 建 設 (株) (株) 千鳥饅頭総本舗 東京海上日動火災保険(株) (株) 西日本新聞印刷 (株) 西日本新聞ビルディング (一社)日本アミューズメント産業協会福岡本部 (一社)日本映像制作・販売倫理機構 日本製鉄(株)九州製鉄所八幡地区 (株) 八 ち ゃ ん 堂 (株) ヒ ロ カ ネ 福 岡 県 私 学 協 会 福 岡 県 商 工 会 連 合 会 (社)福岡県私立幼稚園振興協会	福岡県農業協同組合中央会 福岡県遊技業協同組合 (一社)福岡県労働者福祉協議会 (社福)福岡コロニー (学)藤川学園 (株) 測上ファインズ (株) フ ラ ウ (株) フ ラ ワ ー ビ デ オ (株) 丸 信 三井松島ホールディングス(株) (株) ミ ナ ミ 商 事 明治安田生命保険相互会社 (株) 百 田 工 務 店
---	---	---	---

## 個人賛助会員の皆様

青木 毅 青野 隆子 赤尾 浩太郎 赤星 満子 秋山 憲一郎 秋吉 幸二 浅野 翔太 穴見 英三 新井 潤 新井 洋子 井浦 蘭子 伊折 千秋 石川 治夫 石橋 具視 伊東 清寛 伊東 望 井上 俊治 猪瀬 正典 入江 智子 岩崎 高行 岩村 幸二	因 征四郎 上野 一成 上村 育也 牛島 昌哉 内山 慶子 梅木 聡子 江川 洋 江崎 美津子 江崎 峰子 大内 マツノ 小串 保子 大島 勇夫 太田 強 大西 潤平 大橋 拾子 大原 始 大曲 昭恵 大群 拓也 岡松 直照 奥 久志 尾座本 宜一	越智 康久 落石 藤隆 小野 剛史 戒田 協枝 柿本 憲治 陰山 博 笠原 高司 香月 均 加藤 重敏 金澤 克朋 金子 博 樺島 義幸 神谷 龍治 城戸 徳郎 木下 尊雅 具志 道次 熊野 君男 熊本 幸雄 倉富 昭正 厨 元博 河野 達海	古賀 敏彦 古賀 祐三 古園井 広記 児玉 弘 小林 祥彦 小原 康弘 小宮 董 権現 昭二 佐藤 和久 佐藤 俊之 佐藤 政幸 下田 善太郎 下茂野 寛 庄司 裕介 末崎 真美 末崎 牧 末田 金次 末次 威生 末松 六則 須貝 由美子 杉原 敏子	陶山 正徳 関 好孝 瀬口 和幸 副島 紀身 大井 弘薫 竹田 章 竹田 芳朗 田代 強一 田代 保博 田中 信 田中 浩治 田中 祐二 津上 正幸 手島 道子 手島 秀昭 徳永 文晤 徳永 武人 富松 文夫 中島 貴美子 中島 利男 中嶋 俊子	中島 浩 長野 一江 長野 繁蜜 中原 あや子 中原 憲幸 中村 香代子 中村 清 中村 治幸 中村 睦子 中村 良洋 西川 幸子 西山 隆 野上 明倫 野口 和恵 葉玉 博幸 花田 拓 花田 真雄 馬場 京子 馬場 忠久 林 賢太郎 原 明義	原口 庄塑 稗田 慶子 東 久恵 東 良 久門 尚基 久下 正俊 秀 ハツ工 兵頭 正俊 平野 学 平野 真規 深見 健児 福井 悦子 福澤 信義 藤岡 ひとみ 藤田 孝子 藤田 信治 藤津 権三郎 藤本 廣子 測上 孝 不動 勝義 船越 章夫	古川 雅子 戸次 光生 堀家 克巳 真石 太 松石 量則 松枝 米洋 松岡 久代 松川 里美 松隈 秀隆 松本 美香 松本 洋子 松本 義明 松本 好成 三島 正浩 満生 充一郎 光永 法子 光延 時江 南 巧 見雪 和之 牟田 敏雄 村田 浩	村田 洋平 村山 真知子 本園 明 森 美智代 守田 栄三 森永 泰雄 森山 祐二 八木 信次 安武 憲明 彌永 九州男 山田 貴文 山田 憲勝 山田 幸美 山根 千里 横溝 彌太郎 横山 繁利 吉田 壽一 吉留 節子 吉野 利子 吉原 陽子 米倉 秀之 米倉 正廣
--	--	---	---	---	--	--	--	--

大きな銀行より、  
大好きな銀行に  
なりたい。



この街でこいっしょに  
福岡中央銀行

事務局だより

11月 16日(火) 青連協常任委員会(以降、12/21、1/18、2/15、3/15)  
※オンラインで開催  
第6回広報部会

12月 25日(木) 青年ボランティア・サポーター登録認定者研修会(スキルアップ研修会)  
4日(土)~5日(日) 青連協(減災を考えるワークショップ研修) 役員・顧問・専門部会委員合同会議

R4年 1月 13日(木) 第7回広報部会(以降、3/10・18・24)  
15日(土) 青連協PAプロジェクト・アドベンチャー研修  
19日(水) 第3回家庭部会(以降、3/18)  
24日(月) 「家庭の日」「オアシス運動」作品展(30日)

30日(日) 「家庭の日」「オアシス運動」作品展  
※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止  
1日(火)~10日(水) 県民会議事業県庁ロビー展示

2月 8日(火) ※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止  
11日(金)~13日(日) 青連協(徳地アドベンチャー教育プログラム)指導者養成講習会  
※3/19~21に延期

3月 17日(木) 総務部会  
18日(金) 市町村民会議合同研修会  
25日(金) 第3回理事会

新賛助全員紹介 (R4年2月現在)

特別賛助会員

- (株)新出光(福岡市)
- (株)Q T n e t(福岡市)

団体賛助会員

- (株)フラウ
- 大野印刷(株)

**赤い羽根共同募金**



高齢者、障害者、子どもたちなどへの地域の福祉活動を支援します。災害時には「災害ボランティアセンター」の設置や運営にも役立ちます。

この広報紙は、共同募金の配分を受けて発行しています。

青少年育成 “考”



『専務理事兼事務局長就任にあたって』  
公益社団法人 福岡県青少年育成県民会議専務理事・事務局長  
徳永秀昭

県庁生活を卒業し、昨年の4月から県民会議事務局を預かることになり、改めて振り返ってみると、自分が県庁で青少年問題に直接関わったのは、人づくり、県民生活部で勤務していた2年間でした。しかも、その2年間は、部次長という立場であったことから、現場での実務に携わっていません。このため、県民会議事務局で、ほぼ一から勉強することから、青少年問題への取組みをスタートさせることとなりました。

昭和41年12月13日に開催された青少年育成福岡県民会議結成大会では、「国の盛衰はその国の青少年の双肩にあり、まさに青少年はわが郷土将来の発展を左右するものである……ここに、青少年育成県民会議の結成にあたり、青少年問題に関する深い理解と強い関心のもとに県民の総意を結集し、強力な運動を展開する。右、宣言する。」と、取り組む決意が熱く述べられています。

それから55年、その間、青少年を取り巻く状況が大きく変化していく中で、「大人が変われば、子供も変わる」、「みとめ合い、はげまし合って、のびていく」といった強い思いで、様々な取組みが行われてきています。

近年、インターネットによる様々な情報があふれている中で、何よりも、子ども達が自分自身を大切に、また、思いやりの心を持った人に少しでも育つてくれればという思いで、私自身、事務局の運営を行っていきたくと思っています。

しかしながら、今年度は、昨年度に引き続き、コロナ禍で多くの事業の中止を余儀なくされました。

「来年こそは事業の完全実施」これが多くの人の切なる願いであると思っています。

編集後記

今年こそは通常の広報紙発行ができるかと年末までは期待していましたが更に厳しい状況に▼1月13日に編集企画会議がやっとできた状態です▼年末に実施された青年ボランティア・サポーター登録認定者研修会(スキルアップ研修)は開催され取材ができたことがとても救いでした▼ただ広報委員は同行せず事務局広報に負担をかけてしまいました▼何とか8ページを維持できましたし生の記事が発信できたのは幸いでした▼広報はゼロからのスタート、生みの苦しみはあるけれどそこが広報の醍醐味▼次回213号は広報の本来の活動「企画・取材・編集・校正・発送」を取り戻すことをできるのを願うばかりです

県民会議広報部会長 馬場京子

青少年の健全育成のために

賛助会員入会のお願い

次代を担う青少年の健全育成を図るため、県民会議は、少年の主張大会、野外学習、マラソン大会など、様々な活動をしています。  
県民会議では、賛助会員の募集を行っています。会費は左下のとおりです。電話(092-643-6001)をいただければ、資料をお送りいたします。

**賛助会員の年会費**

個人	1口	1,000円
法人又は団体	1口	15,000円
特別賛助会員	1口	50,000円

**納入いただく方法**

会費は、公益社団法人福岡県青少年育成県民会議の次のいずれかの口座に納入していただくか、県民会議事務局に直接ご持参ください。

- 西日本シティ銀行千代町支店(普通預金) 3053033
- 福岡銀行県庁内支店(普通預金) 526475
- 筑邦銀行福岡営業部(普通預金) 1597091
- 福岡中央銀行本店(普通預金) 1030569
- ゆうちょ銀行振替 01700-5-4057



この用紙は、森林資源保護のため再生紙を使っています。